

一連の設備投資を敢行 近く製品ヤードも建設へ

齋藤鐵工所(宮崎)

宮崎県のHグレードファブ、齋藤鐵工所(北諸郡三

股町、齋藤嘉憲社長)はこの1~2年かけて、工場増築と同時に、柱大組溶接ロボット、一次加工機の更新、CADの増設など一連の設備投資を敢行した。また、今後は既存の溶接ロボットのバージョンアップ(REGARCへ変更)や、製品ヤードを建設する計画。同社は、県内の同業他社と比べて早くから一次加工機や溶接ロボットなど最新鋭の設備機器を導入、生産性の向上を図るとともに作業の効率化を推進してきた。だが、導入後10~15年を



齋藤社長

経過した設備機器もあり、老朽化したことから直近2年をかけて更新および新設を進めた。同時に加工ラインの見直しの必要性にも迫られたことから、工場を一部増築(約700平方メートル)、空いたスペースに専用の塗装ヤードも確保した。更新および新設された設備は、神戸製鋼所製の柱大



工場を増築



柱大組ロボットも順調に稼働

組溶接ロボットシステム(2アークタイプ)と天吊りタイプの溶接ロボット、一次加工機はアマダマシンツール製の孔あけ機(6BH11000CNC)。

さらに、CAD関係ではドッドウエル B・M・S製の「S/Fライナー REAL4」を増設し、現在は5台体制となっている。「担当陣容は4人で、業務効率が図られており、急な仕様変更にも対応できている。BIM対応にも期待している」(齋藤社長)。

「担当陣容は4人で、業務効率が図られており、急な仕様変更にも対応できている。BIM対応にも期待している」(齋藤社長)。

小田鉄工(兵庫)を見学 加工ラインや混合ガス設備を見学

宏和工業(奈良)

奈良県のMグレードファブ、宏和工業(大和高田市池田、中原一晃社長)は3月18日、従業員教育の一環として中原社長はじめ従業員ら21名が兵庫県のMグレードファブ小田鉄工(加西市鴨谷町、小田岳人社長)を訪問し、加工設備の特徴や加工に際しての工夫などを見学した。

宏和工業は昨年から従業員が他社工場を見学する機会を設け、学んだことを自社にフィードバックする取り組みを実施している。今回の見学では、両社の従業員同士が小田鉄工で使用する水素混合ガスのハイドロカットに関して、切断速度や使用上の注意点などについて説明や質問を行い、実

際に機器に触れてみる場面もあった。中原稔工場長は「経営者が工場見学をさせてもらう機会はあったが、今回のように従業員が他社を見学できることは稀で、設備や工夫の実態をじかに見て学ぶだけに理解度も深く、自社工場に直接的にフィードバックすることができる。加工する本人が見て学ぶ効果は大きい。今回の



中原社長(前列左はし)はじめ従業員ら21名が参加。前列中央が小田社長

見学でも、従業員が興味を持った点を小田鉄工の従業員の方に教えていただいた。現場レベルの会話は非常に有意義だった」と話している。

今後の設備投資では、既存の溶接ロボット2台を伸鋼製のREGARC・15タイプへ変更する。建屋関連では、工場横に製品ヤード(スパン25



製品ヤード建設予定地